事例No.	2548
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	南三陸復興ダコの会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口 ・観光

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

南三陸復興ダコの会

出典

平成26年度ふるさとづくり大賞事例集

団体表彰

特定非営利活動法人　西興部村猟区管理協会　北海道西興部村

概　　要

ハンターの高齢化などによりエゾシカの駆除頭数が減少、農林業被害や交通事故も増大したことにより、村では村内全域を猟区として設定、エゾシカを狩猟資源として管理。安全で成果ある狩猟ができるよう地元ハンターがガイドとして付き、ゲストハンターに狩猟の場を提供している。これにより、地域が主体となった次世代の野生動物管理システムの開発を目指している。



評価された点

・地域ならではの課題に対して、会員自らが自発的に取り組んでおり、自主財源で運営をしている。
・ゲストハンターにエゾシカの狩猟の場を提供し、地元ハンターがサポートする体制をつくりだし、獣害対策、交流の両方を果たしている。獣害対策は、各地の重要な課題であるが、この取り組みは一つの参考になる。
・ハンターの高齢化、減少は資源管理上、大きな課題となっている。次世代育成の視点を評価。



南三陸復興ダコの会　宮城県南三陸町

概　　要

町の名産であるタコをモチーフにした「オクトパス君」のグッズ制作・販売などを事業化し、被災地の雇用創出・地域振興を図っているほか、関連事業として、集合内職を運営する「手作りセンター推進事業」や、耕作放棄地を活用した「農園コミュニティ推進事業」などを展開し、里山を核とした地域づくりを推進している。主力商品の売上の一部を義援金として、東北３県と南三陸町に寄付している。



評価された点

・グッズの販売により、住むところや仕事を失った人たちの働く場を生み出すだけではなく、地域の人たちが安心できる居場所、地域交流の拠点ともなり、さらには全国からの注目を集めることで、地域の人たちの自信や誇りにもつながっている点が高く評価される。農園コミュニティ作り、新事業の展開など、絶えず新たな挑戦を続けており、今後のさらなる発展も期待できる。
・特産品を活用した商品開発、キャラクター化、多角的な事業展開など、他地域の参考になる好事例。大学、企業、NPOとのネットワークが広がり、震災復興に大きく寄与している。

